



解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

2018. 6月第595号

発行所 アシュラムセンター  
523-0894 近江八幡市中村町 567-2  
Tel 0748-33-4030  
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ  
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772  
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

3月に、アメリカに住む息子夫婦に女の子が生まれた。私たちにとっては初孫である。生まれるまでは、なんでもかお祖父さんになるという実感がまるで湧かなかつたのだが、産まれたての赤ん坊の写真を見た途端に、知らず知らずのうちに涙が溢れてくる。孫娘のスマスや眠る写真を携帯の待ち受け画面にするに及んでは、われながら「ジジはか」だと思いつく思いう毎日だ。さて、そんな可愛い孫の名を、息子夫婦はなんと名付けるのか楽しみにしていたのだが、二人で決めた名前は「ハル」。そう、この子の名前は、「春」という。もちろんそれは、3月の終わりに生まれ、日本でもアメリカでも長く厳しい冬の後の美しい季節の名前であると同時に、もう一つ大切な深い意味がある。

実は、昨年2017年1月の年頭アシュラムの最中に、私たちはとても悲しい知らせを受け取ったのだ。それは、息子夫婦に初めて授かった新しい命が妊娠3ヶ月目で流産したというものだった。アメリカからの緊急の電話で、それを知った妻は、ショックで声も出ない。しかし、アシュラムの参加者の皆さんに動揺を与えてはいけないと、必死で気丈に振る舞っていた。けれど、

「わたしは来年の春、かならずあなたに帰ってきた。心待ちにしていた新しい命が、残念ながら天に帰って行ったこと、大変な悲しみの中にある、息子夫婦のために祈ってくれるようにと振り絞るように語った次の瞬間、私は自分でも思いもよらない言葉を発していたのだ。「けれど、必ず来年の今ごろがあります」と。アブラハムがイサクの誕生を告げられた言葉が口をついて出てきたのだ。「わたしは来年の春、かならずあなたに帰ってきた。心待ちにしていた新しい命が、残念ながら天に帰って行ったこと、大変な悲しみの中にある、息子夫婦のために祈ってくれるようにと振り絞るように語った次の瞬間、私は自分でも思いもよらない言葉を発していたのだ。」

今、その約束の子として、「春」は生まれた。けれども、それは単に子どもが与えられたという喜びのことではない。私たちの周りには子どもや孫のできない悩みや悲しみを抱えた多くの友のあることを知っている。また生まれたばかりの赤ちゃんが大変な病を負っている友もいる。神様の約束とは、そんな悩みや悲しみ、苦しみや痛みの中にあるものに、「わたしは必ず共にいる」という決して変わることはない約束なのだ。

「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。」(ヘブライ11:1)

「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。」(ヘブライ11:1)

「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。」(ヘブライ11:1)

「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。」(ヘブライ11:1)

主幹牧師 榎本 恵

ヘブライ11:1

瞑想

信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。

「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。」(ヘブライ11:1)

「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。」(ヘブライ11:1)

「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。」(ヘブライ11:1)

「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。」(ヘブライ11:1)

第44回

松山アシラムに参加して

正村 純子

「わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。」ヨハネ14:16



初めての「三重アシラム」

泉川 初子

「神さまにひいきさ

への招きも確かにそうです。友の運転手として参加したつもりが、

仰に少しでも近づけるよう、生活を整えて行こうと決心した「三重アシラム」でした。



「もうひとりの助け主」を、主が私の側においでくださったこと、このお方が、私との親しい愛の交わりを何よりも喜んでくださ

（単立チャペルこひつじ）

「ケセラセラ」と越えてきたと思っていま

癖であったという「ぼく



ロサンゼルスアシラムの友、ご宿泊。皆でよきお交わり。

ご献金者 敬称略 2月分 (追加) 明石シオン 山岡 義明 2口

3月分 金山 良雄 和子 榎本 てる子 橋本 なる子 中谷 哲造 鹿屋 キリスト教会 フラジロ 自由メソジスト サウデ教会

取神 ミニアシラム 沖繩聖書教室 榎原 昌子 辻井 昌子 明石シオン 植松 喜美子 千歳 京子 越智 上柳 香川 正岡 リッコ 山田 喜久子 山田 忠美子 佐賀 尾島 浩介 関根 悠紀子 勝美 廣子 猪瀬 菜山 吉川 大浦 二愛 義明 山岡 福園 聖書教室 武田 シマ子 日本

ライアンス 呉教会 佐藤 千代子 村瀬 俊夫 脇 萬里子 濃川 彰子 常任運営委員会 橋本 なる子 足立 タツ子 センター 聖書教室 チヤイム コンソート (池田 チヤイムの会) 石井 美雪 今泉 晶久 ちいば教師 記念チャペル 夕礼拝

### 約束の虹



橋本るつ子



主の御名を賛美いたします。  
 アッシュラムの皆さまに長い間、  
 温き祈りのうちに覚えていただき  
 きました妹てる子は、病気との  
 闘いを終え、2018年4月25日13時57分に家族と  
 長年の友人であり同志である青木さんに囲まれ  
 て主の御許に帰ってまいりました。皆さまのお  
 祈りを心から感謝いたします。55才という余り  
 にも若く、もっともっとやりたいこと、やって  
 ほしかったことがたくさんあったと思う者にと  
 って、悔しくて残念で仕方がありません。てる  
 子のことを想うと涙が溢れます。しかし、本人  
 が心から希望していたCelebration of Life (いの  
 ちを祝う) に集ってくださったみなさんやて  
 る子の笑っている写真を見ていると、本当にて  
 る子は多くの人から愛され、てる子自身も愛し  
 ぬいた素晴らしい人生を送ったんだなあ、と心  
 から感謝しています。

てる子は、毎朝のレジの時間をとても大切に  
 しておりました。朝、目覚めると、ベッドの中  
 で聖書を読み、父の「旧約一日一章」をぼろぼ  
 ろになるまで読み祈っていました。てっきり寝  
 ているものと思い声をかけると、「今、祈って  
 るんやから話さないで」ときつく叱られたこと  
 が何度もありました。てる子のすべての原動力

がここから与えられており、ダンプカーのよう  
 な働きもこの神様の愛に押し出されてできたこ  
 とと思います。

今回のCelebration of Lifeのテーマは虹。本  
 当にびっくりしました。前夜式のはじまる直前  
 に突然の嵐の後の虹！てる子の魂が虹に乗って  
 天に駆け上がったように見え、心は喜びでいっ  
 ぱいになりました。

最後に讃美歌の歌詞（讃美歌360番3節を私  
 の主人が英語から訳したものです）をひとつ。  
 なぜ虹なのか考えながらお読みください。

私の苦しみの間にも私を訪ねてくる喜びよ、  
 私はあなたに対して心を閉じることができま  
 せん。

私は雨の間も虹を描きます。

そして、約束はむなしなものではない！と思  
 えてきます。

それは、悲しみがきつと涙ぬぐわれるようにな  
 るためです。



てる子師生前からの  
 リクエストを皆で大賛美  
 ♪まぶねのなかに♪

- 山本 弘子
- 横山 宜和
- 村田 豊子
- 猪瀬 和子
- 大阪聖書教室
- 伊達 平和
- 神吉 智子
- 吉田すみえ
- 唐渡 睦子
- 鹿屋 麗屋
- キリスト教会
- 伊達 知恵
- 榎本 恵
- 榎本 康子
- 榎本 光太
- 榎本 久子
- 小林 七海
- 鈴木 一志
- 静岡聖書教室
- 安仲 萌子
- 池谷 治朗
- リンドバーグ
- 東京聖書教室
- 溝 井
- 堺大浜
- キリスト教会
- カフェいろいろ
- 聖書入門講座
- 東 千代
- 大山 悠子
- 片岡フジ子
- 米田 康子
- 米田 歌子
- 沖田 朝子
- 松本 直美
- 77口
- ¥1,877,395
- ヨセフ基金
- (義援金)
- 常任運営委員会
- 吉田すみえ
- ちいるば
- アツちゃん・
- シュラム君
- 3口
- ¥5,300

### たびんちゅ牧師と行く沖縄平和巡礼の旅

イエスは主なり

今年も沖縄平和巡礼の旅のご案内を致します。  
 6月の沖縄は、訪れる人々の心に平和の思いを  
 想起させてくれます。慰霊祭、サマリア人病院  
 デイケア訪問、伊江島島めぐり、沖縄聖書教室、  
 そして今年は、主幹牧師がサマリア人伝道所で  
 日曜日の礼拝奉仕をします。どうか、この3泊  
 4日の旅を通し、沖縄に人々と出会い、主の平  
 和について深く黙想致しましょう。皆様の参加  
 をお待ちしております。

日程 2018年6月21日(木)～24日(日)  
 定員 8名

恵師、沖縄在住約20年、  
 貴重な出会いから生まれた旅企画です。

- 日程、予定
- 6/21(木) 那覇空港集合12:30  
サマリア人病院訪問
- 22(金) 慰霊祭(第2外科壕跡) 聖書教室
- 23(土) 伊江島、わびあいの里、  
ぬちどう宝、反戦資料館
- 24(日) サマリア人伝道所 礼拝  
解散
- 費用 60,000円  
(ホテル宿泊費、食事、入館料、  
レンタカー、フェリー代 含む)  
※飛行機チケットは各自でお早目  
お取り下さい。



↑沖縄の方々と慰霊祭 第2外科壕

- 新修道場
- のために
- たびんちゅ牧師
- 1口
- イースター教会
- 柴山 広子
- 岡澤 淑子
- 吉川 晴子
- 齋藤 星耕
- 稲荷 明古
- 5口
- ¥25,000
- 合 計
- 86口
- ¥1,909,695
- 専らご献金、  
ご献品、お祈り、  
感謝いたします

## 主幹牧師の2018年ビジョン(4)

さて最後に、アシュラムセンターの40年の歩みを経、新しい40年に踏み出す前に、これから取り組もうとする2つのビジョンを紹介して、今年の主幹牧師のビジョンを終わりにします。まず、最初は、新修道場計画の再考です。一昨年から進められてきましたセンターの「新修道場」計画ですが、今年度も引き続きセンターのビジョンとして掲げていきます。現在、5名の修道生が共同生活を送っています。老朽化した修道場の建物は、耐震性の問題もあり、早急になんとかしなければならぬものです。しかし、まず建物よりも、人であるということで、この計画に共鳴する方を祈り求めてきました。この修道場で、共に祈り、生活する友が与えられること、終の住処として「何処に住むのかではなく、誰と住むのか」を大事にする、そんな新修道場計画です。今日まで、色々なところでこの話をし、興味を持っていただいておりますが、なかなか、それに応答して下さる方が今年一年ではありませんでした。ところが、私たちが当初想定していた高齢者の方達ではなく、若者たちが、不思議なことに集まってきたのです。前述した通り、現在5名の修道生たちが、朝の早天に出席した後、それぞれの職場、学校、そして人生の学び場へと出かけています。また、夕礼拝やその他のアシュラムの集会へも積極的に参加してくれています。そのような中で、昨年の年末、修道場の前にある土地を買うことができるといふ朗報が飛び込んできました。細い里道を挟む向かいの土地は、長年放置されたままになっていました。常任運営委員の青木兄の尽力により、先方との交渉が進められ、値段的にも、法律的にも納得できるところまで、話がされています。その土地をセンターが手に入れることができれば、修道場の土地と合わせて、全体で500坪あまりになります。これをもとに、もう一度全体構想も含め、「新修道場計画」を見直し、この計画のための専門的なプロジェクト委員を選任したいと思っています。「キリスト信徒一人一人の生活の中に、日々新しく主の養いを受ける密室が守られていくこと」の実践の場としての修道場を目指します。どうか、こ

のこのために祈りを合わせ、皆様の知恵をお貸しください。

第2は、これも昨年度から継続しているビジョンであります。アシュラムに関心を持つ神学生に対する支援をアシュラムセンターで行うということでもあります。アシュラム運動の将来を担う後継者を育てていくこと、これは焦眉の課題です。実際、今まで、神学生として修道場で生活を共にし、現在牧師として働いているものが4名います。皆それぞれ教会に仕え、良き働きをしています。きっと、このアシュラムセンターでの経験は彼らにとって良きものとなっていることだと思います。そんな先輩たちに続くものが、また修道場に来ることを祈りながら、同時にセンターの働きを担ってもらえる人物の与えられることを願っているのです。もちろん今すぐにもう一人の牧師を雇用することは物理的には不可能でしょう。しかし、必ず主はそのような人材を私たちに備えてくださることを信じます。前述の通り、今年から、リトリートアシュラムを行うことになりました。この中で、現在いる修道生と共に、新しくアシュラム運動に興味を持ってもらえる神学生たちの参加を各神学校に呼びかけてみようと思っております。そして、その参加費用をまず人材育成のための援助として、今後のヨセフ基金とすることを考えています。是非このことを覚え、祈りを合わせていただきたいと願っています。

以上が、本年2018年の主幹牧師のビジョンであります。荒野で叫ぶ声であること、これこそがアシュラム運動の始まりでありました。そういう意味では、まだまだ小さくか細い声ではありますが、遠くで吠える犬の遠吠えが、まだ見ぬ仲間たちへの合図であるように、これからも、ここから叫び続けていきたいと思っています。「全国のアシュラムの友よ、どうか私のために祈ってほしい。また「密室」の喜びを証し、広げていく器となってほしい。やがてこのセンターの閉所式の挙げられる日を望みつつ。」この先達の言葉に答えていくものになる一年となりますように。(終)



和子母、早天に戻ってこれ感謝

## アシュラム修道場生活記 その16 「ブリとサンマと、それからイワシ」

伊達 平和

アシュラムセンターには多くのゲストがやってくる。日本全国津々浦々、さらにロスアンゼルスから、ハワイから、はたまた台湾からと、非常に多様性に富んでいる。年齢層も幅広く、ご高齢の方はもちろん、時には小学生までやってくる（なお、乳幼児にはまだあったことがないが、そのうち榎本家長男ソラくんとモモちゃんの子ども、ハルちゃんに会えそうなので楽しみにしている）。筆者は普段は大学生の相手をしているが、小学生の相手をするのも嫌いではない。

先月も小学生がアシュラムセンターに来ていたので、暇をみつけて相手をした。筆者の遊び方の1例はこうである。何かを食べる真似をする。間髪入れず「ブリブリブリー!!!」とウンチをひねり出す音を叫ぶ。そうすると子どもたちはゲラゲラ笑う。本当に単純である。10回ほど繰り返してもまだ笑っている。子どもにとってウンチの効果は絶大である。しかし子どもたちも、ウンチの話が「はしたないこと」「下品なこと」ということはわかっている。あまり笑っていると、周りの大人の目も気になるようだ。そんな時は、「ブリブリブリー!」を「サンマサンマサンマ!」「イワシイワシイワシ!」に変えてみる。しばらくはこれの繰り返しで笑ってられる。こうやってはしたない話で紙幅を使ってもしょうがないが、決して育った伊達家がそういう話題でいっぱいだったというわけではなく、むしろ「反動」だと思っていたきたい。

さて、「生活記」至上、最もどうでもいいエピソードを書いてきたところであるが、「ブリブリブリー!」と言いながら、別のことを考えていた。遊び始めたときは、「遊んでやっている」くらいに思っていた。しかし一緒に笑っていると、本当は逆で自分がこの子たちから遊んでもらっているんじゃないかという気がしてくる。普段は難しい顔をして論文を書いたり、授業をしていたりしているが、きっと自分はこんくだらないことを言って笑っている時間が欲しかったのだ。感謝しなければならないのは自分のほうだった。

こういう逆説的な現象は、普段は気が付かないだけで、意外と沢山転がっている。学生を教えようと思ってやっていることだが、自分が一番勉強になる。さらにその反応から逆に教えられることもある。ご飯を準備しておなかを満たそうと思っているのに、逆に食べる人の反応から自分の心が満たされることを感じる。換言すれば、世話をする／されるという関係性をほどこいていくと、そこには一方通行ではない、もっと双方向的な関係があるのだ。もっとも、全ての「世話をする／される」という関係について、そのように思えるというわけではない。世の中には厳しいケアの関係性もあるし、この修道場の生活を通して、何事も「感謝感謝」なんて言えるほど、自分はできた人間ではない。ただ、そう思えるようにしてください、と、そう祈っている。また、この話をアシュラム誌に書いたことで、センターから小学生がいなくならないようにも、祈っている。



ふくらんだら、ほっぺ?おもち?  
(るっ子姉の愉快な孫)

### あとがき

本文の中にもあるが、妹のてる子が4月25日天に召された。この間、多くの皆様の励ましやお支え、お祈りやお見舞いに、感謝します。母はまだ、悲しみのうちにありますが、きっと主が元気にしてくれと信じています。パールバックの小説「大津波」をいま読み返しています。「お前は、死について何も知らんから、恐れるんじや。で生まれるのを怖がったのかと不思議に思った様に、いつの日か、なんで死を恐れていたのかと思うようになる。」命の門をくぐる事、生まれる事と死ぬ事はひとつです。また会う日まで。  
(恵)

6月の聖書教室など	
1(金)	阪神ミニアシュラム (主恩教会 PM1:00)
11(月)	福岡聖書教室 (博多クリオコートホテル PM1:30)
14(木)	常任運営委員会 (アシュラムセンター)
15(金)	センター聖書教室 (アシュラムセンター AM11:00)
17(日)	ちいろば牧師記念チャペルタ礼拝・愛餐会 (PM5:00)
19(火)	大阪聖書教室 (大阪クリスチャンセンター AM10:30)
22(金)	沖縄聖書教室 (ちひろ会 PM6:00)
25(月)	静岡聖書教室 (旧・英和女学院宣教師館 PM2:00)
26(火)	東京聖書教室 (御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30)
26(火)	桜美林リトリートアシュラム (桜美林大学荊冠 PM2:30)
27(水)	カフェちいろば聖書入門講座 (京都・伏見区深草 PM1:30)

6月のアシュラムなど	
2(土)	第17回 新潟一日アシュラム 奉仕者 加々美要師 0250-23-2697 吉澤昭男兄
5(火)	第8回 札幌一日アシュラム 奉仕者 櫻本恵師 011-561-7951 吉田すみ彥姉
6(水) 8(金)	第43回 教職アシュラム 奉仕者 加々美要師 048-789-1325 加々美要師
14(木) 16(土)	第44回 加太アシュラム 奉仕者 黒田朔師 072-445-8235 西川武兄
16(土)	第9回 仙台アシュラム 奉仕者 櫻本栄次師 022-222-3855 潮 義男師
21(木) 24(日)	たびんちゅ牧師と行く沖縄巡礼の旅 奉仕者 櫻本恵師 0748-33-4030 アシュラムセンター

7月のアシュラム予定	
16(月)	福岡一日アシュラム 奉仕者 櫻本恵師 0748-33-4030 アシュラムセンター
26(木) 28(土)	常任運営委員のための修道場アシュラム 奉仕者 櫻本恵師 0748-33-4030 アシュラムセンター
28(土)	天上の友を憶える日礼拝 奉仕者 櫻本恵師 0748-33-4030 アシュラムセンター

8月以降のアシュラム予定	
8月20～22日	第1回 学生のための 修道場アシュラム <b>New!!</b>
8月20～22日	第28回 軽井沢アシュラム
9月14～15日	新潟一泊アシュラム
9月16～17日	九州アシュラム
9月24日	第27回 福島浜通りアシュラム
9月26～28日	第6回 日光オーリーブの里アシュラム
10月1～2日	第42回 山陰アシュラム
10月5～6日	第23回 北陸・富山アシュラム
11月14～16日	第42回 阪神アシュラム
11月20～22日	第43回 京浜アシュラム

## みことば

下妻シャロームキリスト教会牧師

山本 悦子

列王紀上10章

「ソロモンの栄華」(3)

ソロモンの名声を聞いたシエバの女王は難問をもって彼を試そうとしました。しかし、全ての質問にソロモンは解答しました。

女王は多勢の随員を伴い、行列をつくって香料、金、宝石を携え、ソロモンに賜物として差し出します。ソロモンがさぞ驚くであろうと破格の品々をプレゼントするのですが、ソロモンの知恵と彼の建てた宮殿を目の当たりにし、驚いたのは女王の方でした。食卓の料理、居並ぶ彼の家臣、丁重にもてなす給仕たちとその装い、献酌官、実に行き届いた一級品で、息も止まる様な思いです、腰抜かす程の振る舞いに、聞きしに勝るソロモンの栄華を見届け、女王は故国に帰りました。

置く場所のない程プレゼントを頂き、その心は果たして満足でしょうか。ソロモン王は世界中の王の中で最も大なる富と知恵を有しました。こんな時こそが危ないのです。サタンはしのび寄ってくるのです。絶頂の時、ダビデもバテシエバに心を寄せ大変な罪を犯しています。油断大敵です。

イエス様はどんなに小さな罪も見逃しません。

「もし片方の手か足があなたをつまづかせるなら、それを切って捨ててしまいなさい。両手両足がそろったまま永遠の火に投げ込まれるよりは、片手片足になっても命にあずかる方がよい…」マタイ18章

最高のプレゼント、それは私たちがイエス様と出会ったことです。この救いの喜びがブれないように。使徒パウロもイエス様の救いを経験した時、富も地位も学問も、金銀、宝石も糞土のように思っていると言われています。



土曜日の早天は修道場で